

西村英一自由民主党副総裁の追悼の辞

(昭和五十五年七月九日)

内閣総理大臣・自由民主党総裁・正二位大勲位故大平正芳君の内閣・自由民主党合同葬儀が執り行われるにあたり、ここに自由民主党三百万の全党員、党友を代表し、謹んでご霊前に最後のお別れの言葉を申し上げます。

いまここに、君の醇厚な遺徳を偲び、偉大な功績を讃えんとする内外の賓客、友人、知己が、かくも多数参集されたにも拘らず、すでに現身の君の英姿はなく、われわれもまた、その讐咳けいがいに接し、あの笑顔を呼び戻す術を知りません。悲しみにくれる君のご遺族とともに、ただただ痛恨の思いばかりであります。

想えば、君の生涯を貫いて不滅の光彩を放つものは、不屈な自己犠牲と献身の精神でありました。とりわけ、内閣総理大臣として、国政担当の重責を担われてからは、内外にわたる歴史的な大転換期の苦悩の十字架を一身に背負い、寡黙にしてよく痛苦に耐え、身命を賭してその政治的使命を達成されたのであります。

君は、外に向かつては、東京における先進国首脳会議の議長として、石油危機下の世界経済の安定に尽瘁されたのをはじめ、新たな国際情勢の変化に処して、東奔西走、友好諸国との協力関係の強化に偉大

な役割を果たし、世界平和の維持に貢献されました。また内にあつては、困難な経済情勢の下にあつて、よく国民生活を防衛しつつ安定成長への軌道をしくととも、「田園都市構想」「家庭基盤充実政策」等、高度成長以後のわが国政治が目指すべき指針を示されたのであります。

さらに、政党人としてわれわれの龜鑑とすべきは、君の自由民主党への燃ゆるがことき忠誠心と、厳しい自制心に貫かれた政治行動でありました。過去いくたびか、君が政権担当に十分な力量と手腕と機会に恵まれながら、政局安定のため、その栄光の座を余人に譲つた逸話はあまりにも有名であります。その寛厚な君の資性は、自由民主党総裁に就任後も変わることなく、常に寛容をもって事に臨み、よく議会制民主主義の大道に誤りなからしめ、また、わが党の団結と前進のために大きな指導力を発揮されたのであります。

さらに、君の眞価を何よりも鮮烈に歴史に刻んだのは、崇高な戦死にも比すべき壮烈な君の最期でありました。

今回の衆参両院選挙の劈頭、非運にも病に倒れた君は、最後の一瞬まで選挙の必勝と政局の安定、そしてベネチア・サミットへの出席を念じ続けながら、遂に天界に去られたのであります。

喪章に飾られた君の遺影は、つねにわが党候補者たちの選挙戦の陣頭に立ち、君の最後の演説の声は、録音テープを通じて日本国民に訴え続けました。かくてわが自由民主党は、衆参両院にわたり圧倒的な勝利をおさめることができましたが、文字とおり君は、自らの死をもってわが党の圧勝を贖つたのであります。

だが、この勝利を誰よりも喜ぶべき君はいまはなく、われわれは茫然として、君が党に残した偉大な遺

今 遠の 永

産と責任の重大さに恟々たる思いを禁じ得ません。いまはただ、一刻も早く悲しみを乗り越え、君の終生の願いだつた政局の安定と国政の前進のために、全党員一致結束、全力を傾注することをお誓ひし、君の眠りの安らかならんに努める決意であります。

ここに君の生前の業績をたたえ、遺徳を追慕しつつ、心からご冥福をお祈りして、お別れの言葉といたします。